



オリーブ通信

2013年10月号
2013.10.19発行
第144号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

合格おめでとう!!

近年、日本語検定試験を受験する生徒さんが、オリーブでも多くなりました。合否結果がまだ出ていなくても、次のランク（級）の学習をされる向上心あふれる生徒さんたち。大人になっても勉強するのも素敵！

N1 合格者

李鉄鋒さん(中国)



単語をがんばろうと思ひ、試験前は勉強しました。聴解は点数をとらないと合格できないだろうと思っていました。文法が難しかったです。何回もチャレンジできるから、緊張はしなかったです。次は、ビジネス日本語を目指します。合格のアドバイスとしては、日本語をもっと喋ってください。会話が勉強になります。

喬翔宇さん(中国)



おめでとうございます！

他にもたくさん受験されましたが、残念な結果だった方、帰国されていて結果が不明な方がいらっしゃいます。今回合格に至らなかった生徒さんも、苦手な科目(やはり漢字や長文読解)がわかり、重点的に勉強することが見えたようです。

担当の田中三千彦先生より一言

「N1 合格おめでとうございます。しかしこれで安心せずにもう一段上を目指しましょう。具体的にはBJT(ビジネス日本語テスト)「J1級」または日本語検定3級以上です。両者ともN1よりは相当難しく歯ごたえがありますので、頑張ってください。」

中川先生のへんてこ日本語

J=ALERT

39



先月のこのコーナーで、「これまでに経験したことのない大雨」という表現がよく使われると書いたら、本当にそのような大雨が襲来し、滋賀には全国初の「特別警報」が発令された。滋賀県内でも大戸川周辺や信楽などで、まさに「記録的な」災害に見舞われた。被害に遭われた方に衷心よりお見舞い申し上げたい。筆者の自宅のすぐそばに「J=ALERT」が設置され、緊急時には情報が発信されることになっている。今回も問題なく装置は作動した。ところが・・・発信情報の一部が聞き取れない。音声が届るのに合わせて語彙の選択に問題があるようだ。これではALERTの意味がない。

日本語教育を勉強している読者諸氏には、ただ「どう教えるか」や「どう理解させるか」ばかりでなく、「どう伝えるか」の能力開発にも力を注いでほしい。

昨今の日本は、確実に多文化共生社会へと向かいつつある。外国人とのコミュニケーションの機会が増すことは言うまでもない。そんなとき、日本語教育を学ぶ者なら、「どう伝えればよいか」、そのテクニクを心得ているはずである。

先日、スピーチ・コンテストの来賓としてベトナムへ行ってきた。コンテスト出場者の一人が「ベトナムのコツカは蓮です」と言ったが、国家？国歌？国花？と考えてしまう。こんな場合は、「ベトナムのコツカ、つまり国の花は」と言えばよい。ニュース番組でも、「シアン、試みの案」などと言ひ換えが行われている。

日本語教育の知見を持つ人が、活躍できる舞台は、大きく開けつつある。日本語教育こそ、コミュニケーションの原点であると言ってもよい。



京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄



こんなふうに授業しています

さて、日本語能力検定試験の「合格」へのがんばりは、生徒だけではありません。先生たちも、生徒に何とか合格してもらうために、プレッシャーを感じ、いろいろと苦労されておられることと思います。先生たちは、どんな工夫をしておられるのでしょうか。

田中 (三) 先生

(学習者)
N1 合格者～N3
レベルまで様々

授業は、同じクラスに2級、3級の受験者がいたので、級にはこだわらず、自作のリストを使って、いろいろな「語彙」を増やすこと、楽しみながら日本語の能力のUpに役立つ問題、口慣らしの音読、などをやりました。現在は語彙増強と、ビジネス日本語テストの聴解練習をやっています。

豊村先生

(学習者)
N2 受験レベル

本人は読解が苦手と自覚していました。従って問題集を使って読解の練習を集中的にやりました。一文章問題ごとに3分から5分の制限時間を設けて解答してもらう。解答後に私も問題文を読んで答がまっているか確認する。間違っていた設問は再考させたり解説したりしました。残念ながら今回は不合格でしたが、やはり読解の点数が足りなかったようです。今は、12月のN2試験を目指して再び読解の練習問題をやっています

中西先生

(学習者)
N4 受験レベル

インドの青年を担当しています。彼は旅行が好きで昨年10月来日してから何回か行っているようです。日本を知るにはいいと思います。授業はみんなの日本語のテキストと漢字をやっています。彼は特に漢字が苦手です。欧米や英語、スペイン語圏等の人はだいたい苦手ですね。漢字に力を入れてやるとのこと話しました。12月の検定頑張ると言っています。検定だけでなくいろんな話をしながら、これからも楽しみながらやっていこうと思います。

納谷先生

(学習者)
N4 受験レベル

N4問題集を使いましたが、答えを見て解説を読むだけなら独学と変わらないので、「じゃあ、これの『て形』は？」など、解説に載っていないことにも触れました。生徒から多かったのは「正解は3です。なんで2と4は間違いですか？」というような質問でした。問題集には、誤った選択肢に用いられている単語の説明までは書いてありませんから。



日本語を教えています。～新米教師日記～④



SHIPSには様々なレベルの学習者がいて、それに合わせたクラスがあります。新しく入って来る人のレベルに合うクラスがなければ、調整して新しいクラスを作ったりしています。

先日その調整のために削らなければならないクラスができ、ごめんなさいと謝りながらクラスを削る事を伝えました。生徒は快く承諾してくれたのですが、「先生、どうしてそんなに謝るの。先生が悪いんじゃないでしょう。」と言われました。

その時に私は、証券会社の窓口で働いていた時の事を思い出しました。

新規の口座開設に韓国人のお客様が来られたのですが、新入社員だった私は外国人のお客様の手続きは初めてで、何度も処理を確認してお客様を待たせてしまいました。お待たせする度に「申し訳ありません。」と言っていた私に、そのお客様は「どうして謝るの。自分の仕事でしょう。」とおっしゃいました。

同じような状況でも、日本人のお客様にそんな事を言われた事はなかったので少し戸惑いながらも、「これはあなたの仕事なんだから、謝ってばかりいないで自信を持ってやりなさい」という意味だと理解しました。

謝る時、本当に申し訳ないという気持ちも確かにありますが、「ごめんなさい」や「申し訳ありません」という言葉に頼ってしまっていたんだと思います。無意識に、許してもらえる事を前提に謝っていたのかもしれない。

状況は少し違いうけれど、●年前と同じような事を言われてしまった自分を恥ずかしく思ったのと同時に、あの時感じた大事な事を思い出させてくれた生徒に感謝しました。

これからは、「ごめんなさい」より「ありがとう」をたくさん言えるようにしよう！

そして何事も自信を持ってやるんだ！

・・・と自分に言い聞かせている今日この頃です。



(小島 裕子)

おうみ多文化フェスティバル

毎年恒例となった「おうみ多文化フェスティバル」
昨年も雨で中止になりましたが、今年は何と、台風前
の大雨の中にもかかわらず実施されました！
SHIPS のブースのお手伝い、ということで、オリーブ
からもスタッフとして5名が参加されました。



9月15日(日)、台風18号が近づく中、草津市ロクハ公園で行われた「第10回おうみ多文化交流フェスティバル」に、オリーブからもスタッフとして5名が参加しました。当日は朝から雨、雨、雨。時折止み間はあったもの



の、翌日特別警報が出たのも納得の一日でした。そんな中でも開始早々から沢山の方が訪れ、最終的には数千人以上もの(?) (おうみ多文化 HP より) 来場者があったそうです。会場では各団体の出展スペースの他、各国料理を振舞うブース、野外ステージでは民族音楽の演奏やそれに合わせたダンスなどがあり、老若男女、国籍問わず楽しめました。

さてオリーブの担当は民族衣装の体験コーナーで、アジア・中東・アフリカ・南米など16種類の衣装を用意して子供達を待ちました。普段目にする事のない色鮮やかな衣装に興味を持ってくれたのは圧倒的に女の子で、お母さんと一緒に「これが似合うんじゃない?」「丈はこれぐらいで」「いや、ちょっと地味かな」などなど、品定め眼差しは真剣そのもの。サイズや数の都合で100パーセント希望に沿えないこともありましたが、写真撮影では多少緊張しながらも素敵な笑顔を見せてくれました。

さてオリーブの担当は民族衣装の体験コーナーで、アジア・中東・アフリカ・南米など16種類の衣装を用意して子供達を待ちました。普段目にする事のない色鮮やかな衣装

スタッフとして一日を通して感じたのは、着るものに対する女性の関心の高さです。もうこれは年齢問わず、更には国籍も問わず、地球上の女性全員に共通する本能あるいは法則なのではないかと勘繰ってしまうほどでした。オリーブからは男性2名の参加でしたが、最初の案内が済めばもう後は所在無さげに眺めていることしかできませんでした。もとより男性の立ち入る余地などあろうはずがなかったのです…。



それはともかく民族衣装を体験してくれたみなさん、今日の衣装はどの国のものだったでしょう? その衣装を着た人がどんな言葉話しどんな生活をし、日本の私達のことをどんな風に考えているのでしょうか。興味を持って想像してもらえたら、それだけで今日のフェスティバルは大成功です。きっかけは何だって良いんです、気に入った衣装に袖を通して少しだけその国に想いを馳せる。多文化交流というフェスティバルの趣旨から見ればこれ以上のことはありません。そんなお手伝いができて、スタッフ一同幸せでした。

(レポート 中村 太)


 先月の活動(9月)

日本語教室 9/7(M),21,28 (3回)
 BNN 会議 9/14 (土) (納谷)
 まちセン運営協議会施設部会 9/19 (木) (田中一)
 おうみ多文化交流フェスティバル 9/15 (日)
 (重松、豊村、中村、佐野、納谷、SP 松尾)

 今月の活動予定(10月)

日本語教室 10/5(M), 19 (3Fにて), 26 (3回)
 BNN 会議 10/19 (土) (納谷)
 まちセン運営協議会全体会 10/17 (木) (田中一)

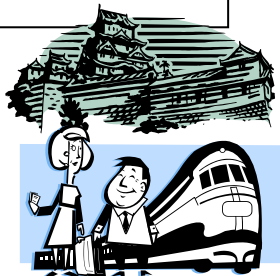
●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●()内は参加者、または 参加予定者。敬称略

 お知らせ

教室変更
 11月9日(土) 309 (3Fへ)
秋の旅行 (申込締切は11月16日まで)
11月24日(日) 大阪城・博物館など (JRにて)

参加人数 (9)

	9/7	9/21	9/28
先生	14人	12人	17人
生徒	17人	10人	15人



会員の動き (9月)

<入会>

いん か 尹 佳さん(9月28日入会)



中国出身で、日本に来てから6年目です。交換留学生として日本に来て、日本の大学院を経験し、今は京都で働いています。趣味はカラオケ、料理をすることです。

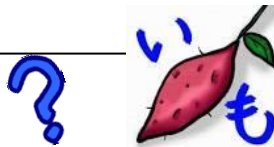
おう しゅんな 王 俊娜さん(9月28日入会)



中国の吉林省から来ました。今、研究生として滋賀大学で勉強しています。これからどうぞよろしくお願いします。

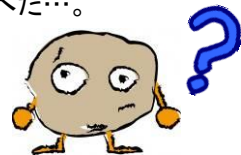
<退会> なし <賛助会員> なし

編集後記



年齢の混ざった同僚と雑談していた。
 「スカイダイビングをするのが夢なんですよね～。あ、でもパラグライダーは、いもってできないんですよ。」
 「へえ～、パラグライダーの方が簡単そうじゃん。でも、スカイダイビングの夢はすぐ叶いそうやね。」
 会話はスルスルと進んでいるのだが、ん？？？どうも会話を続けていてもある言葉がずっと引っかかっている。
 話のコシを折ってしまうが、前に戻って聞いてみた。
 「さっきさ、『いもって』って言った？」「はい、いもって、いもるです。言いました。」「・・・何それ？」
 そうそう、何それ私もわからない、とそこにいた全員が疑問に思っていたようだった。
 「えー『いもる』って言いませんか～？フツーに言いますよ。標準語ですよ！あれ？方言なのかな？」
 と「いもる」の認められた存在を言い張る青年。「えー！！標準語でも方言でもないよー！！」知らんわーと全員合唱抗議したので、疑問に思った青年は、今最強の文明の利器、スマートフォンで調べた…。

「『いもる』は、平成に生まれた若者の言葉、だって。」
 平成生まれの彼のみが知っていた言葉「いもる」。感心しながら、若者の仲間入りしたい私は、早くも次の会話から「いもる」を五段活用させながら連発して使ってみた。
 あ、言い忘れたが、「いもる」は「怖い」「ビビる」みたいな意味らしい。



こはる